

2014年12月25日

ご協力会社様各位

株式会社リコー 常務執行役員  
日本統括本部長 坂田誠二

ご案内：リコーグループ喫煙対策方針（社内全面禁煙化）施行について

拝啓

平素より、リコーグループ諸活動に向けた貴社人材の派遣におかれましては、ご高配を賜り厚く感謝申し上げます。

すでに貴社ご担当者様には、現場のレベルでご案内、ご協力のお願いを申し上げますが、**2015年1月より、リコーグループをあげて社内全面禁煙化に、取り組むことといたしました。**

今般、医学的にも喫煙・受動喫煙と健康障害との因果関係がより明確になってきており、世界的な喫煙対策の加速化に伴い、日本政府の新成長戦略「がん対策基本計画」におきましても受動喫煙対策・喫煙率低減策等がおりこまれております。

また、喫煙対策はグローバルレベルでの潮流となっていることから、このたび国内リコーグループとして、喫煙及び受動喫煙からくる健康障害防止を図ることにより、健康増進・快適職場実現のために、**敷地内禁煙**の取り組みを開始いたします。

本取り組みは、国内リコーグループに従事する従業員、ご協力会社様、お取引先様、ご訪問者様に、安全で健康な職場環境を提供する事を目的としており、具体的な取り組みは下記の通りです。つきましては、本取り組みの趣旨へご理解を賜り、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

リコーグループ喫煙対策方針  
～非喫煙化・受動喫煙のない環境で健康増進・快適職場を実現する～

1. 対象範囲： 国内リコーグループが所有もしくは賃借する全ての敷地・建物内  
※ご参考：リコーグループ従業員は、社外においても就業時間内は禁煙とします。

2. 対象者： 国内リコーグループ各社全役員・従業員  
**協力会社様従業員、及び 各社・各事業所に来所される全ての方々**

3. 開始時期： 2015年1月 冬休み明けから

※現時点で禁煙化を進めることで、事業継続上のリスクが生ずる可能性がある、とした経営上の観点より一部対象領域期間を限定した特別措置を実施する場合があります。

（ご参考）添付資料：グループ内周知に使用しております受動喫煙リスクに関する資料を、勝手ながら添付させていただきますので、ご参照いただければ幸いです。

以上

# リコーグループ 受動喫煙リスクに ついて

**RICOH**  
imagine. change.

禁煙室内の喫煙量削減

2014年12月25日

株式会社リコー 日本統括本部



# 受動喫煙リスクまとめ：何故、敷地内禁煙なのか

## 1. 健康への影響

- 1) たばこの煙、特に副流煙と呼ばれる煙には多くの有害物を含有し、非喫煙者にも様々な健康障害を及ぼす（二次喫煙） ※主流煙：喫煙者が吸い込む煙、副流煙：火をつけたたばこから立ち昇る煙
- 2) たばこの煙は、粒子が細かくPM2.5（肺の奥に入り込む）特性を有し、かつ、約200種の有害物質・60種類以上の発ガン物質を含有する

## 2. 職場環境整備における分煙の限界

- 1) 屋内での分煙対策は、物理的に受動喫煙回避は、ほぼ不可能
- 2) 喫煙室のPM2.5濃度は、環境基準の20倍、隣接エリアも環境基準値並み
- 3) 喫煙場所の屋外化ガイドラインでは、開口部から9m必要とあるが、実際には倍以上離れていても受動喫煙の可能性あり
- 4) 呼気に含まれるたばこ臭いガス状物質は、喫煙後解消するまで約45分間必要  
また、喫煙後、煙が無くなった後、衣服・カーペット・家具等に残留した有害物からの暴露を“三次喫煙”と呼ぶ

## 3. 国内外/他社動向

2020年、東京オリンピック開催条件として受動喫煙対策法制化  
（北京オリンピック以降、開催国は全て法制化しており、努力義務でなく罰則規定が入る）



**受動喫煙対策⇒敷地内禁煙が最適策**



# 受動喫煙リスク①：副流煙・PM2.5・3次喫煙

## 1. 受動喫煙（二次喫煙）要因「副流煙」有害物質比較 以下①～③有害物質は、複合的な健康障害を及ぼす

出典：厚生労働省「喫煙と健康」第2版

3大有害物質比較	主流煙	副流煙
①ニコチン：神経毒性物質	1	2. 8倍
②タール：発ガン物質含有	1	3. 4倍
③一酸化炭素：動脈硬化促進	1	4. 7倍

◇主流煙：喫煙者が吸い込む煙、  
喫煙時800℃の高温となるため、有害物質も燃焼されやすい  
副流煙：火をつけたたばこから立ち昇る煙  
低温のため多くの有害物質が残り、極めて危険性の高い煙

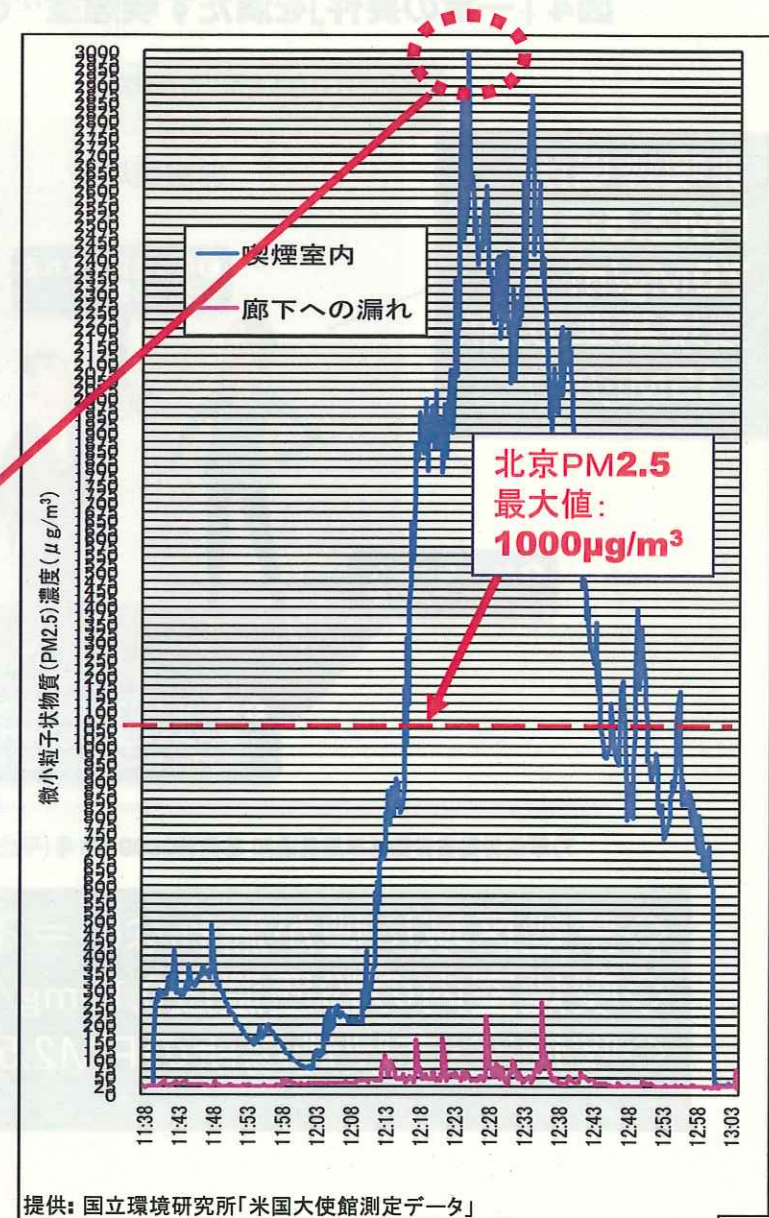
## 2. 三次喫煙※（Third hand Smoke）

換気の悪い喫煙室では、PM2.5濃度は3000  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ （北京の約3倍）  
衣服に大量のタバコ粒子が付着し、周囲に強い三次喫煙をもたらす

※三次喫煙とは：

米国国立がん研究所指定がんセンター  
ダナ ファーバー研究所が作り出した新語  
喫煙後の残留ニコチンと亜硫酸が反応し、発ガン性物質として  
最も強力なニトロソアミンを形成、呼吸・経口・皮膚接触後  
人体に入り込み、暴露は主に乳児・子供が多く  
昨今の研究として、有害性は喫煙者と同等レベル

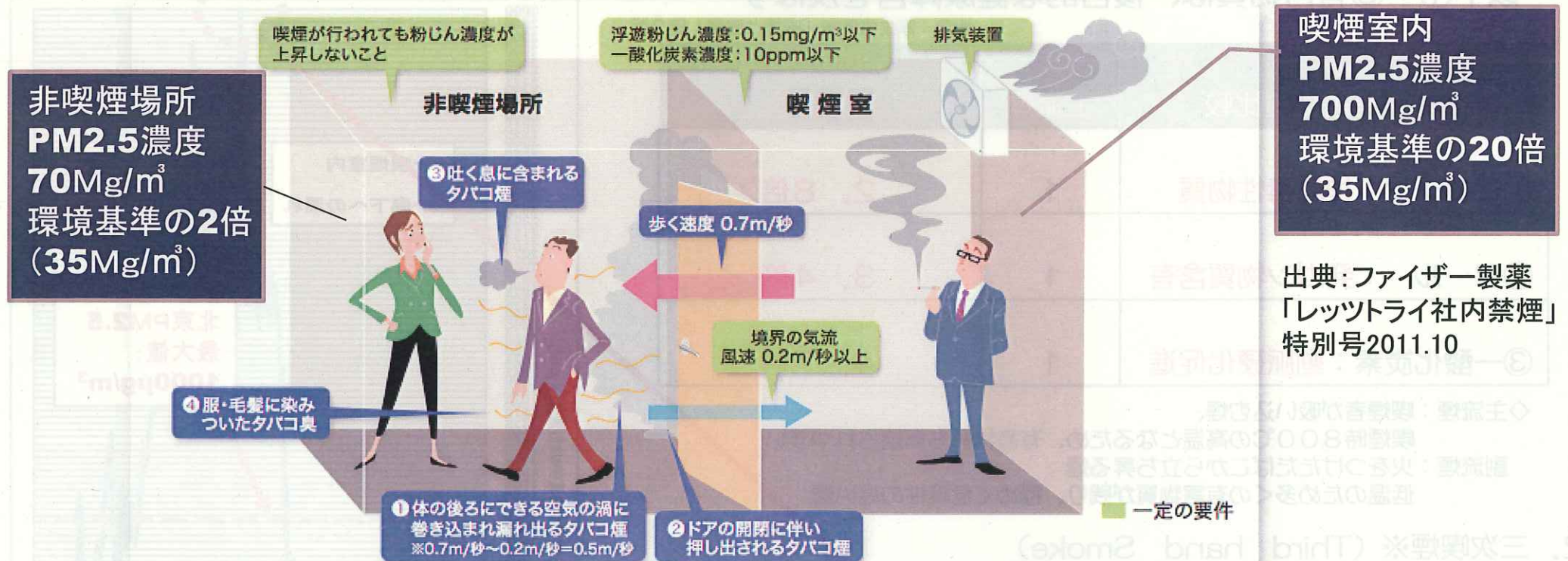
◇喫煙室：微小粒子物質（PM2.5）濃度





## 受動喫煙リスク②：屋内喫煙室の限界

図4 「一定の要件」を満たす喫煙室<sup>7)</sup>でも防げない受動喫煙



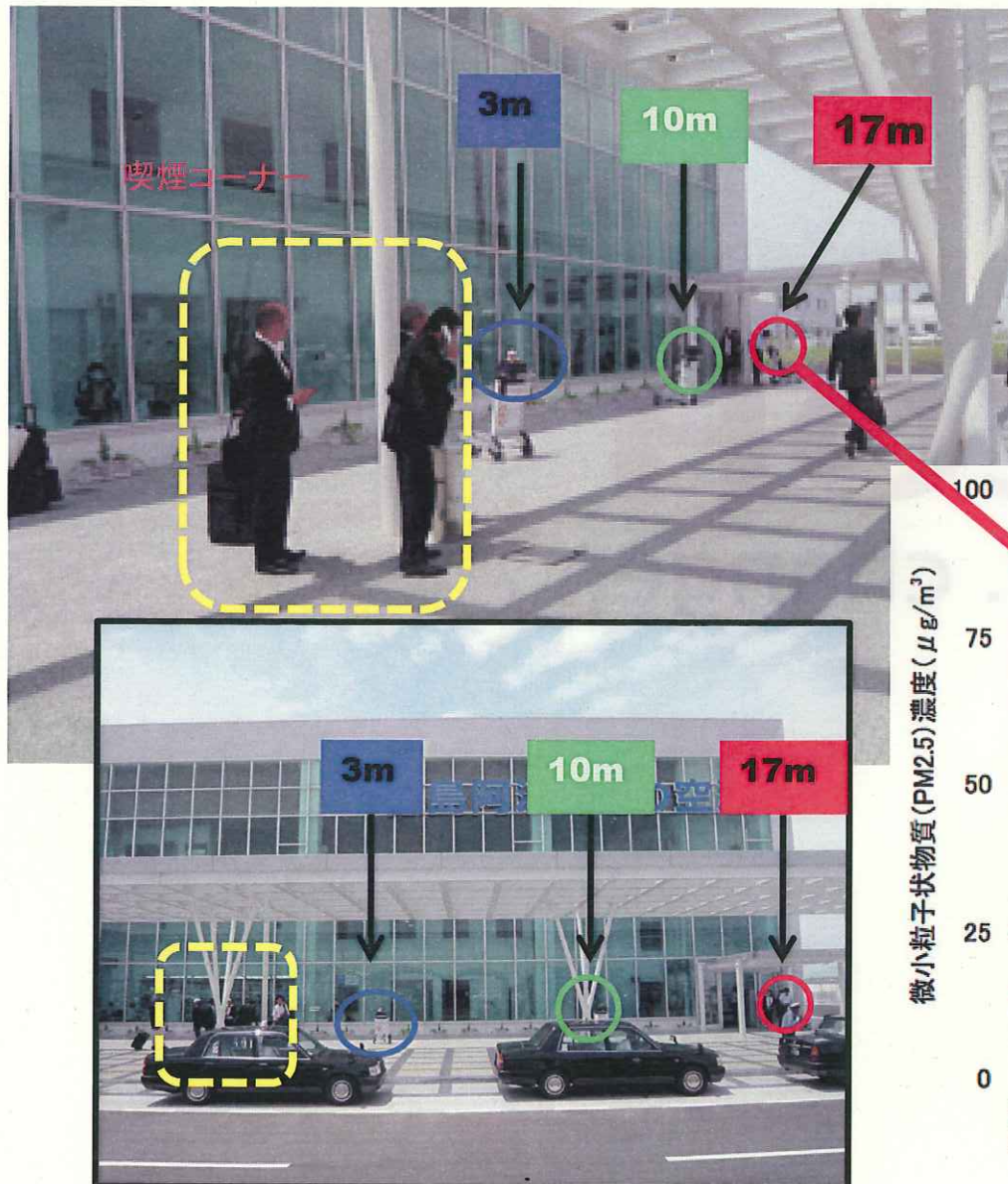
7) 厚生労働省労働基準局長通知 基発第0509001号(平成15年5月9日) 職場における喫煙対策のためのガイドラインについて[L20110418063]より作図

- ◇ 禁煙区域に煙が漏れない＝不可能
- ◇ 喫煙室内の粉塵濃度  $0.15\text{mg}/\text{m}^3$  以下＝大排気量＝エコでない/高額な排気設備が必要
- ◇ 喫煙室・非喫煙場所のPM2.5濃度は、環境基準※を大きく上回っている

※環境基準: 環境省による一般的な生活環境におけるPM2.5の許容濃度



## 受動喫煙リスク③：建物からどれくらい離せば良い？

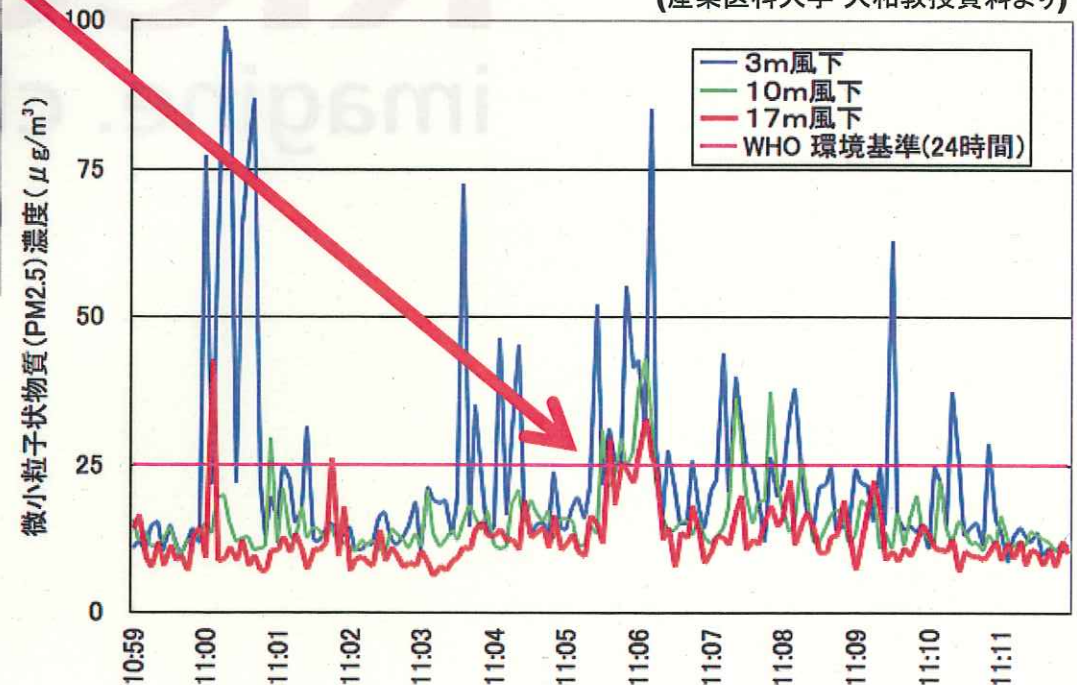


◇17m離れても  
受動喫煙影響あり

◇数十mのクリアランスが必要

◇ベストは敷地内禁煙

(産業医科大学 大和教授資料より)



**RICOH**  
imagine. change.

